

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

中学校が積極的に地域と関り交流することで、連携・協働する取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

今年度の取組紹介

規模適正化による4小学校の統合再編から3年が経過し、これまで、地域・保護者・学校が一体となり取組むことができるように、事業内容の見直しをすすめてきました。今年度は、公民館等の社会教育施設・各種団体との連携を深めることができ、各事業を行うにうえて、子どもの実態や課題を地域全体で共有しながら子どもの教育の臨むという意識が高まっています。

中学校区では、キャリア教育を柱として教育に取り組んでおり、こども園・小学校・中学校で地域から学ぶ計画を組み、このことで園児・児童・生徒の地域への理解と愛着がさらに深まったと考えます。また、地域への理解が深まったことで、都祁地域の良さをアピールするためにプレゼンテーション資料を作成したり、災害時に地域に貢献しようと積極的に防災学習に取り組むことができました。



今年度のまとめ

今年度も、コーディネーターや委員を中心として、多くの地域の方々からのご協力をいただき、各事業を進めることができました。

都祁中学校区では、こども園・小学校・中学校が近距離に位置していることから、今年度も各事業を通じて園児・児童・生徒や保護者・地域の交流が進んだと考えます。また、教職員間の連携も深まり、学習の連続性や系統性を意識しながら、中学校区全体で学びを深めることができました。

来年度に向けて

今年度の取組を基本に据えながら、事業により多くの地域の方々に関わっていただけるよう、更なる活動内容・計画の見直しを行っていきたいと考えます。そのためには、コーディネーター会議の定期的な開催を通じて、地域の子どもの現状と課題の把握につとめ、問題解決に向けた取組を共通理解しながら進めていきたいと考えます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

中学校が積極的に地域と関わり交流することで、連携・協働する取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

今年度の取組紹介

○「第40回都祁高原マラソン」への参加

地域で実施されている最大の行事である『第40回都祁高原マラソン』に全校生徒が参加しました。今年度で都祁マラソンへの参加は3回目を数えますが、今回は、大会スタッフとしてだけでなく、競技にも出場しました。大会準備にあたっては「式典会場の背景パネルの制作」や「会場周辺の清掃活動」を行い、当日は、「選手受付」「参加賞配布」「表彰式補助」「選手誘導」など、地域の方々と共に大会運営に取組みました。

全国より約1500名の参加者を迎えての大会に地域の一員として参加しましたが、参加者や地域の方々より温かいお礼の言葉をいただき、都祁地域の一員としての誇りを再確認することができました。また、昨年度に引き続き『はるかひまわり絆プロジェクト』として、神戸の震災にゆかりのあるひまわりの種も配布することで、命の大切さや防災についての学習も深めました。今年度は、中学校だけでなく、こども園・小学校とも協力して取組み、例年以上に充実した機会となりました。



【今年度のまとめ】

都祁高原マラソンへの取組に加え、「生け花教室」「郷土料理教室」「箏曲指導」「エイサー教室」などでは、地域の方々に講師にお迎えして専門的にご指導いただく地域交流会を開催し、学びを深めることができました。また、放課後に行われた「数学教室」では、学習内容を基礎から丁寧に振り返ることで、学力の向上につなげることもできました。

このように、地域より温かくご支援いただけることは、日々の教育活動において、大きな助けとなっています。

【来年度に向けて】

今年度も、多くの地域の方々のご協力によって事業を進めることができました。今後は、さらにより多くの方々に積極的に運営委員会の活動に関わっていただけるよう、事業内容の工夫や運営方法の改善を図り、学校や地域の活性化につなげていきたいと考えています。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

郷の良さを愛する心、協力し合える力を育むと同時に、自分には自分を必要とする仲間がいると思える『自己有用感』の芽生えと、自尊感情の高揚につなげる

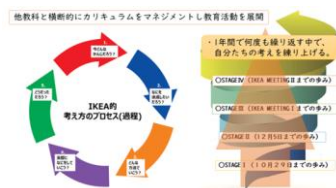
今年度の取組紹介

都祁の郷は豊かな自然や、三陵墓や御祭に関係する神社等、興味深い地域遺産が多く存在する地域である。しかしながら、過疎化が進み、統合再編からの2年間は新しい環境に入り込めず、自尊感情が高まらない傾向にありました。そこで、まずはポジティブに物事を捉えられる機会を教育活動の中で展開していきたいと考えました。ポジティブに捉えられる機会とは、持続可能な社会として『くらしの向上』を考えるとともに、自分たちの郷の良さをブランディングしていけば良いのかを考える教育活動のことであります。この活動をもとに、従来地域の方々で行ってきた“ふるさと学習”を系統立てました。

例を挙げると、3年生では従来行ってきた“蚕の学習”の学びを通して、歴史等を様々なことを学ぶと同時に、SDGs視点（つくる責任・つかう責任）で、服のリサイクル等を学び、他校への発信（都（MIYAKO）未来会議サミット）を行いました。その際にも地域のコーディネーターの方々にインタビューをしたり、講座を開いていただいたりしました。

また5年生でも、IKEAさんの協力のもと、自分たちの郷の良さをブランディングする活動（起業体験学習：文科省事業）を行いました。従来の世界遺産学習とは違い、何度もPDCAサイクルを繰り返せる“学びのフィールド”を、カリキュラムマネジメント

し、探究的な学びを展開した。その中でも、地域のコーディネーターの方々にインタビューをしたり、講座を行っていただいたりしました。



今年度のまとめ

田植えや稲刈り、野菜の栽培等の体験は恒例の事業となりつつあります。また、各学年のカリキュラムを系統立て地域を知る学習に取り組めることを意識した学習を行った結果、学校アンケート「地域の行事に参加していますか」において81.5%もの児童が肯定的に答えました。また、こうした学びの構築は子どもたち同士のつながりをアカデミックな環境において学びの獲得を有することから「学校が楽しい」の回答において“とても思う”の数値が昨年より50%も上回り約50%に達しました。

来年度に向けて

6年間の学びの中で、多くの地域の方と関わりながら、地域が「継承してきた宝物」を題材に「くらしの向上」を「提案」出来る力を育てていきたいです。そのために引き続き、地域との関り、地域の「くらしの向上」（地域創生）のために自分自身がどのように関わることが出来るのかを、どのように地域の方々の力を借りながら進められるかを、学校全体で考え、適切な形で教育活動に組み入れていきたいです。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域とのつながりを感じながら、心豊かで、生き生きと生活する
子どもの育成

今年度の取組紹介

○文化体験事業で、地域の剣道クラブの方に来ていただき剣道体験をしました。座礼(挨拶)から始まり、剣道についての話や気をつけなければいけないことなどを聞きました。それから、ラダートレーニングや新聞切り、面を打つ体験をしました。大きな声で「めん!」「こて!」と言いながら打突をし、思い切り竹刀を振りました。剣道の先生方による技の見本も見せていただき、その迫力に子ども達はびっくりし一瞬シーンとなりその後大きな拍手が沸き起こりました。最後もきちんと正座をし、礼で終わりました。なかなか経験できない伝統文化に触れ、立ち振る舞いや礼儀の大切さなどを知るよい機会となりました。



○文化体験・環境整備事業で地域の方々に来ていただき、花や野菜を植えました。「穴を掘って、苗のおうちをつくるよ」と教えていただき、子ども達は「早くトマトできるかな?」「どんなお花咲くかな」「楽しみだな」とワクワクしながら取り組んでいました。また、育てていく中でわからないことがあると「畑の先生に聞いてみよう」と畑の先生が来てくれることを楽しみにしていました。地域の方々と触れ合うことで、親しみや感謝の気持ちが自然と培われてきました。



今年度のまとめ

地域の方々の協力のもと、おはなしのひろば・生け花・茶道・剣道体験・地域の行事への参加等、園だけでは経験できない様々な豊かな経験、感動体験ができました。また、地域の方々にあたたかく見守られ声をかけていただくことで、自分の住んでいる地域の方々や地域の行事に関心をもつようになりました。地域の方との出会いを通して、人とかかわる経験を積み重ねることができ、地域の方への親しみや感謝の気持ちを持つとともに、ほめてもらったり認めてもらったり大きな拍手をもらったことが、子ども達の自信や意欲にもつながりました。

地域や保護者の方々には、子ども達の様子を見ていただくことができ、園の教育・保育を理解していただくとともに、1年間の成長を感じてもらうことができました。

来年度に向けて

地域の方々の協力を頂きながら、その中で、地域の方とのつながりを感じ心豊かで生き生きと生活できる子どもをめざして、様々な感動体験ができるように取り組んでいきたいと思っております。